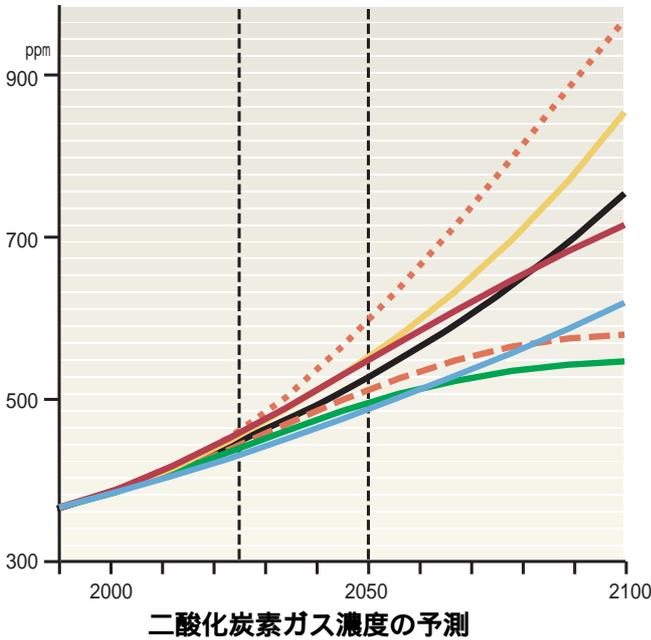
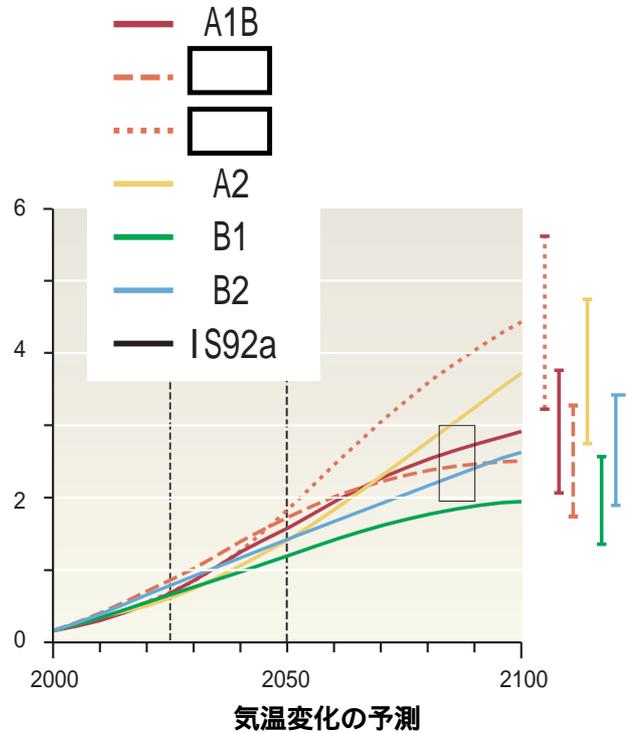


# これから、どーなる？



の中には、A1FI と A1T が入ります。  
下の文章を参考にして、空白を埋め  
ましょう。



## 自分たちの未来を、自分たちで考えよう

私たちの未来を考えてみましょう。今の生活をそのまま続けることは可能でしょうか？ 人口は増え続けるのでしょうか？ 新しい科学技術は開発されるのでしょうか？ これらのことは、地球環境に影響をあたえる条件となります。

IPCC は、これらの条件について、いろいろなパターンを考えて、未来を予測しています。基本的には現在よりも豊かな世界を予測していますが、大きく分けると経済優先（パターンA）と環境優先（パターンB）に分かれます。また、それぞれ地球全体のことを考えるか（パターン1）と地域を優先するか（パターン2）があります。

A 1：経済は今までどおりに発展し、新しい科学技術が急速に導入される。人口は21世紀中ごろにピークとなり、それ以降は緩やかに減少する。エネルギーの使い方によって、さらに3種類に分ける（A1FI：石炭・石油などの化石燃料を重視したもの、A1T：化石燃料以外を重視したもの、A1B：両方をバランスよく使うもの）

A 2：世界の各地域は独自の考えでバラバラに動く。そのため、経済成長は緩やかで人口の増加も緩やかに増加が続く。

B 1：経済の発展は、環境を維持する方向に進む。人口はA 1と同じパターンで変化する。

B 2：経済、社会、環境を維持するために地域的な対策を重視する。

## 「地球温暖化」と「気候変動」

日本では「地球温暖化」として紹介されている問題は、世界では「気候変動」として紹介されています。

### 報告書

IPCC は 1990 年に第一次評価報告書、1995 年に第二次評価報告書、2001 年に第三次評価報告書を取りまとめました。

多くの科学者が... 第三次報告書のとりまとめと査読には、計 122 人の総括執筆責任者と執筆責任者、516 人の執筆協力者、21 人の査読編集者、337 人の専門査読者が参加しました。

## IPCC とは

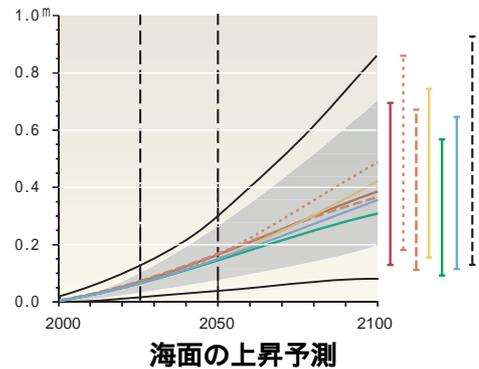
地球温暖化の実態把握とその精度の高い予測、影響評価、対策の策定を行うことを目的として、世界気象機関 (WMO) と国連環境計画 (UNEP) の協力の下に 1988 年に設立されたのが IPCC です。正式には、「気候変動に関する政府間パネル (IPCC : Intergovernmental Panel on Climate Change)」といいます。

### 第三次評価報告書

3 回目の報告となる第三次評価報告書は、2001 年にまとめました。これまでに公表された評価報告を踏まえ、気候変化に関する過去 5 年間の調査研究から得られた新たな成果が取り込まれています。この中で 21 世紀末までの環境の変化については、排出シナリオに関する特別報告 (Special Report on Emission Scenarios : SRES) を基にした予測をしています。

### 排出シナリオに関する特別報告

IPCC の未来予測は、(1) 対策をとらない場合の気候変動の影響を評価する、(2) 対策を行った場合の気候変動の影響を評価する、(3) 温室効果ガスの排出を抑制する可能性と費用を分析する、(4) 国家間における削減可能量を取り決める、ことを目的としています。今回のシナリオは、新たな対策を採らない場合を予測しています。ここで紹介しているグラフは、特別報告に紹介されているものです。



経済が今までどおりに発展する A1 パターンのとき、石炭・石油などの化石燃料を重視した A1FI では、二酸化炭素ガスは今よりも 2.5 倍増えると予想しています。しかし、化石燃料以外を重視した A1T では、環境を維持する方向での B パターンに近い結果になっています。気温についても同じような傾向です。海面についてはあらゆる予測から可能性を考えると、最大で 88cm 上昇すると考えられています。

### これから、どーする!?

これらはあくまで、シミュレーションです。温室効果ガスが気温を変化させるメカニズムには、まだまだ解明されていない点があります。SRES は不完全な予測です。その不完全な中でも悪い結果がでているということは、どういことでしょうか。何もしなくてよいということはないと思います。今、やらなくてはいけないことを考え、実現していきましょう。

### 参考

気候変動に関する政府間パネル (IPCC)  
<http://www.ipcc.ch/>